

長野県総合計画審議会

○開催日時 令和6年9月5日（木）10時～12時

○開催場所 長野県庁本館3階特別会議室

○出席者

委員 碓井委員 梅崎委員 窪田委員 神戸委員 近藤委員 鈴木委員
中條委員 中村委員 根橋委員 野原委員 花岡委員
長野県 中村企画振興部長 滝沢総合政策課長 松本政策評価担当課長
齋藤総合調整幹 ほか

1 開 会

（齋藤総合調整幹）

ただいまから「長野県総合計画審議会」を開会いたします。

私は、本日の司会を担当いたします総合政策課の齋藤一真です。どうぞよろしくお願ひいたします。

開会に先立ちまして、条例に基づく総合計画審議会の定足数の確認をさせていただきます。本日は、15名の委員のうち、11名に御出席をいただいております、神戸委員におかれましては、オンラインでの御出席となります。長野県附属機関条例第6条第2項の規定により会議が成立していることを御報告申し上げます。

なお、安藤委員、武重委員、羽田委員、若林委員は御都合により欠席されております。それでは審議に先立ち、中村企画振興部長から御挨拶申し上げます。

2 企画振興部長あいさつ

（中村企画振興部長）

失礼いたします。7月に企画振興部長に着任いたしました中村と申します。

委員の皆様には、お忙しい中御出席を賜り心から感謝を申し上げます。また、日頃から県政の推進に当たりまして、格別の御配慮をいただきまして、改めて厚く御礼を申し上げます。

本年度は、「しあわせ信州創造プラン 3.0」の2年目でございます。本日は、計画初年度、令和5年度の主な取組と成果の整理分析をお示しした上で御意見をいただきたいと考えております。

詳細は後ほど担当課長から御説明いたしますが、計画に掲げました40の主要目標にフォーカスを当てて評価したところ、人口減少対策に関する指標としては芳しくない結果となっております。この人口減少対策に関しましては、プラン3.0で掲げた少子化・人口減少対策戦略検討会議を立ち上げて検討を進めてきたところでありまして、本年末には、オール信州で人口減少に立ち向かう県民会議を立ち上げて、戦略を策定して、行政、企業、地域、県民皆様一体となって立ち向かえるようなアクションを起こしていきたいと考えて

おります。私が着任してから2か月でございますが、実際にかんがりの業務のウエートをこの人口減少対策が占めております。

本日の評価結果を踏まえまして、「しあわせ信州創造プラン 3.0」の取組をさらに進めていきたいと考えておりますので、皆様には、ぜひ忌憚のない意見をお願いいたします。よろしく願いいたします。

3 会議事項

(1) しあわせ信州創造プラン 3.0 の政策評価（案）について

(2) その他

(齋藤総合調整幹)

それでは、これより議事に入ります。会議の議長は、長野県附属機関条例第6条の規定により会長が務めることとなっておりますので、ここからは中村会長に進行をお願いしたいと思っております。

なお、発言の際はマイクを口元に近づけてお話しいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは中村会長、よろしくお願いいたします。

(中村会長)

委員の皆様、おはようございます。信州大学長の中村宗一郎と申します。規定によりまして議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

この「しあわせ信州創造プラン 3.0」、長野県総合5か年計画は、この総合計画審議会の委員の皆様方に骨格をつくっていただいたところでございまして、それを踏まえた上での本年度、2024年度の点検評価をいただくということでございます。

なお、今日御欠席でございますが、若林先生、それから鈴木委員、花岡委員に関しましては策定には関わっていないということではございますが、中身は重々御承知かと思っておりますので、忌憚のないところで意見交換ができればと思っております。

せっかくの機会でございますので、信州大学の現状を少しお話しさせていただければと思っております。

御案内のように、信州大学は長野県唯一の国立大学というところでございまして、地域の振興の先駆けとなるべく、その存在意義、価値は重々承知しております。そういう中で国は、国を元気にしようというところで、人を変え、社会を変え、大学を変えというところで、大学がその先陣を切れとかねてから言っていたところでございますが、それには先立つものが要するというところで、国際的に活躍できる国際卓越研究大学の10兆円ファンドというものを用意しまして、その利息、果実でサポートしようというところでございます。なかなか利子の運営がうまくいっていないというところでございますが、完成時には、3大学から5大学をサポートするという計画でございます。

一方、その裾野を広げて層を厚くする、重層化しなければいけないというところで、そういうトップ大学に続く準トップ大学を育てようというところで、地域中核特色ある研究

大学群、J-PEAKS という枠組みも、昨年の補正予算で 3,000 億円というところで出来上がったわけでございます。これは 25 大学というところでございます。

国際卓越研究大学には、枠組みはマキシマム 5 の中で 1 大学だけが選考されました。一方、その J-PEAKS のほうは、枠は 25 ですが、それに先駆けて 12 大学が選定されましたが、信州大学は幸いにもその 12 大学の一つに選ばれたところでございます。ますます信州大学に対する期待は大きいものがあるというのを、ひしひしと実感しているところでございます。

そういう中で私は、この 10 月で任期の折り返し点を迎えます。3 年の任期で、理事・副学長を任命しておりますが、10 月から、また新しい体制で臨むことにしております。その 10 月からの体制で三つの柱を掲げております。

一番最初は DE&I 推進でございます。D はダイバーシティの D、E はエクイティ、公平性の E、I がインクルージョンというところございまして、単に多様化だけではなく、本当に一員となって一緒に支えるというのを、まずは信州大学がモデルになって、それを地域に展開していこうというふうに思っております。

2 番目が覚悟のグローバル化でございます。統計によりますと 2050 年か 2070 年か定かではありませんが、日本の人口の 10% は外国人になるだろうという、いよいよ移民社会の到来がそこまで来ていると言われておりまして、その先陣となるべく、大学もそういうダイバーシティに対応するように店構えを変えなければいけないなということで、覚悟のグローバル化と。

国立大学は非常に厳しい財政の中、リソースを投入して、恒常的に外国人、教員、それから留学生も呼び込みまして、本当のグローバル化を果たしたいと思っております。

3 番目が「新学術×新産業」でございます。大学が変わればかなり社会が変わるなというのを私も肌感覚でこの 3 年間で実感しております。言うところで、新しい学術の礎をつくって産業を呼び込んで、この地域を元気にするということで、世界から選ばれる信州大学を目指したいと思っております。

また、この「新学術×新産業」のところは、おいおい御披露してまいりたいと思っておりますが、今、信州大学は水に関する研究をやっておりますが、水より一歩も二歩も進んだところの新しい学術の展開ということを考えておりますので、引き続き御支援のほどよろしくお願いしたいと思います。

以降着座にて議事を進行させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

それでは次第に従いまして、お願いしたいというところでございます。今日の議題は 1 件だけでございます。先ほど中村部長から御紹介がありましたように、「しあわせ信州創造プラン 3.0」の政策評価（案）についてというところで、御意見を賜りたいと思っております。

繰り返しになりますが、本審議会の会議に関しましては、県の審議会等の設置及び運営に関する指針に基づきまして公開することとなっております。発言はそのまま公開されるというところで御了承ください。ホームページ上での公開でございます。よろしくお願いたします。

まず、事務局から御説明をいただいて、その後に御意見を賜りたいと思っております。

それでは、資料に基づきまして、松本政策評価担当課長、どうぞよろしくお願いいたします。
す。

(松本政策評価担当課長)

政策評価担当課長をしております松本と申します。よろしくお願いいたします。恐縮ですが、着座にて説明をさせていただきます。

まず、お手元の資料の1でございます。

「R6年度(R5対象)政策評価のポイント」という1枚の資料がございますので、それを御覧ください。

前回プラン2.0のときの政策評価は、八つの重点目標、それから78の関連目標を個別に分析評価を実施して、目標の実現に向けてどのような取組を行い、どのような実績や課題があったのかということに記載しました。

今回プラン3.0の政策評価においても、基本的なやり方は2.0を踏襲しております。県の施策と数値目標のつながりや、達成状況がよりイメージしやすくなるように、概要版においては政策の柱を説明し、その内訳として施策の総合的展開の達成目標の評価について、34施策に沿って行っております。

八つの新時代創造プロジェクトについては、全国順位や過去の実績との比較など、目指す水準や意義を意識して達成指標を記載しています。令和5年度の検討状況や課題を踏まえて、令和6年度以降の方向性を記載しています。

地域計画は、取組と達成目標つながりを分かりやすく記載するように引き続き努めております

続いて、政策評価報告書(案)の説明に入ります。

資料2、政策評価報告書(案)の目次をまず御覧ください。報告書は、「Ⅰ 政策評価結果の概要」「Ⅱ 施策の総合的展開の評価」「Ⅲ 新時代創造プロジェクトの評価」「Ⅳ 地域計画の評価」「Ⅴ 事業点検結果の概要」「Ⅵ 地方創生関連事業の実施結果」の大きく六つの内容で構成しております。

目次の次、1ページを御覧ください。

政策評価制度の概略を説明している部分です。ページ下方にあります「3 観点」は、政策評価のそもそもの目的ですけれども、プラン3.0に基づく取組の成果と課題を把握し、次年度以降の政策形成及び事業構築に反映させ、より効果的・効率的な施策を推進することです。説明責任を果たすため、県民の皆様に分かりやすいものとなるよう心がけて取りまとめます。

次のページを御覧ください。

それを通してデータ、因果関係、成果と課題を重視した評価を通じまして、職員の政策立案能力の強化も併せて図っていくということになっております。

続いて「4 評価方法」の(1)①を御覧ください。

目標に対する進捗状況は、A B C Dで評価をしております。進捗率100%がA、80%以上がB、80%未満がC、基準値未満がDとなっています。ただし、計画期間中継続して同一基準の達成を目標とする場合は、達成の場合はA、未達成の場合はDとしております。

本日は、報告書案のうち、政策評価結果の概要を説明いたします。本文4ページを御覧

ください。

主要目標 40 指標、中身としては細区分で 44 指標ございます。これのうち、Aが 23 指標、約 50%がA評価となっております。また、Bが 2 指標、Cが 8 指標、Dが 10 指標となりました。指標の調査初年度に当たるため、一つの指標は進捗判定をしておりません。この主要 40 指標以外の施策の総合的展開に係る指標のうち、二つの指標の数値は今未確定でございまして、9月 20 日に予定している公表時までには判定をして最終版としていきたいと考えております。

評価対象年度であります 2023 年度、令和 5 年度の特徴的な動きといたしましては、コロナ禍からの回復、そして少子高齢化が引き続き危機的な状況にあるという二つのことがあります。これらを踏まえまして、五つの柱について評価を行っております。

まず一つ目の柱、「持続可能で安定した暮らしを守る」について説明します。

まず、記載内容についてですけれども、進捗状況の説明文の下に、その柱に含まれる主要 40 目標の進捗区分を一覧表にしてあります。また、同じく説明文の右側には、その指標の達成状況をイメージするためのレーダーチャートを記載しております。このチャートの面積が大きいほど順調であるということを示しております。目標の基準値、最新値、進捗区分や目標の考え方については、7ページ以降に一覧表として別途まとめてあります。

進捗状況について、一つ目の柱の件ですが、太陽光発電施設の普及促進等によりまして、再生可能エネルギー生産量は微増いたしました。目標には届かずC評価でした。県は今後も市町村と連携し、再生可能エネルギーの普及拡大に努めます。

民有林における造林面積は、森林づくり県民税を活用したこともあり大きく増加し、A評価でした。

健康寿命は全国 1 位を継続し、A評価であった一方で、コロナ禍の影響の長期化や、物価高騰による生活困窮等の影響もあり、自殺死亡率は増加しD評価でした。

社会インフラである橋梁・トンネルの修繕等は計画どおり進んでおり、公共交通機関の利用者数も増加していることから、それぞれA評価でした。

次に二つ目の柱、「創造的で強靱な産業の発展を支援する」です。

円安の影響を受けた輸出の増加もあり、県内経済への寄与度が高い製造品出荷額等や労働生産性は増加・向上し、A評価でした。今後も成長期待分野を中心に、技術開発や販路の拡大を支援してまいります。

農業農村総生産額は野菜価格の上昇などにより大幅に増加したほか、加工食品の輸出額や木材線山岳もおおむね順調に推移しており、AまたはB評価でした。引き続き、生産量と販売先の拡大に努めていきます。

県民一人当たり家計可処分所得は、基準年度に特別定額給付金等により臨時的に増加した反動で前年度から減少しD評価でした。

また、就業率や県内出身学生のUターン就職率は、都市部企業の採用意欲が高まる中で減少したため、こちらはD評価でした。県内企業の魅力発信や、職場環境の改善、就業支援などに努めていきます。

次に三つ目の柱、「快適でゆとりのある社会生活を創造する」です。

社会増減は 2 年連続して増加してA評価ですが、移住者数は目標に届かずC評価でした。若年層の転出超過も継続していることから、暮らしやすい地域づくりを推進するとともに、

地方回帰の機運の高まりを生かして、移住者や都市農村交流人口の増加を図ります。

コロナ禍の反動と円安により観光消費額及び外国人延べ宿泊者数が大幅に増加してA評価となりました。本県の特長を生かした滞在型観光を推進し、住む人も訪れる人も快適でゆとりを実感できる県づくりに努めます。

信州アーツカウンシルを通じた支援等団体数は順調に増加し、A評価でした。

運動スポーツ実施率は、基準年を下回ってD評価ですが、調査方法の変更もあったため、スポーツに親しむ機会の拡大に努めるほか、数値の動向に注視してまいります。

次に四つ目の柱、「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」です。

新婚世帯の経済的不安の解消や、仕事と結婚・出産の両立支援に取り組みましたが、出生数及び婚姻数の減少に歯止めがかかっておらず、D評価でした。若い世代が将来に明るい希望を持てるよう、市町村等と協働し、あらゆる施策を講じてまいります。

県内事業所における管理的職業従事者に占める女性の割合は微増しましたが、目標には届きませんでした。また、県の審議会等委員に占める女性の割合も減少してまいりまして、それぞれC、Dの評価でした。

法定雇用率適用企業で雇用される障がい者数は、セミナーや見学会、個別相談等により順調に増加し、A評価でした。

子どもの居場所を拡大するため、信州子どもカフェの設置を支援し、設置数は順調に増加し、A評価でした。今度も誰もが個性や能力を発揮し活躍できる社会づくりに努めてまいります。

最後に五つ目の柱「誰もが主体的に学ぶことができる環境をつくる」です。

高校生の海外留学支援事業「信州つばさプロジェクト」の拡充などにより、高校生の海外への留学者率は増加し、A評価でした。引き続きグローバル化への対応や高等教育の振興により、企業や地域の中核的な担い手の育成を図ってまいります。

個別最適な学びに係る研究の推進等によりまして、「自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」と答える児童生徒の割合は増加し、A評価でした。今後はモデル授業の成果を県内に展開するほか、市町村や有識者と連携して、多様な学びの場の充実を図ってまいります。

信州やまほいくの認定園数は着実に増加してA評価でしたが、所在市町村数は伸び悩んだためC評価となっています。認定園のない地域への働きかけや、研修会等を通じた自然保育の質の向上に努めてまいります。

以上、概要を御説明いたしました。成果と課題を踏まえ、プラン3.0の推進につなげていくことが重要と考えております。よろしく願いいたします。

(中村会長)

松本課長、御丁寧な説明ありがとうございました。

必ず委員の皆様方には発言をお願いしたいと思っておりますけれども、順番に御意見、御提案等をいただく前に、今の説明に関しまして、何か御不明な点があれば御発言願いたいと思っております。どなたからでも結構ですので。

碓井委員、お願いします。

(碓井委員)

目標値に対する進捗の状況というのは、結果は分かるんですが、具体的にやったことと、市場環境が変わったことと区分けすると、県としての実効性のある活動というのは何が一番うまくいったとお考えか、その辺のところを少し整理して説明してもらいたいのですが。

例えば、インバウンドの観光消費額が増えたというのは、県でやったからなのか、今の時流に乗っただけなのか分からないわけですね。県がきちんとした施策、ここで決めた施策にのっとって何をやったかということの評価するのが政策評価なので、その辺のところを区分けしてほしいのですが、どうでしょうか。いろいろなもの、AとDの代表的なものです。例えば、Uターン率だとか就業率だとか、こういうのはみんなDですし、県民の可処分所得もDですが、具体的にこういうものに対して県はどういう活動をしてどうなったのか。

(松本政策評価担当課長)

まず、御指摘のとおり、県の施策の影響といいますか、直接の効果と、それから社会的な動きの区分けというのは、正直申し上げまして非常に難しいところがあります。県の施策の効果、単独の施策の効果というものもあるでしょうし、その他関係する国の施策、あるいは市町村さんの施策、いろいろなものが混ざっての統計数値に反映されていると考えております。

ただ、御指摘のとおり、県の施策が本当に良かったのかどうかというのは、改めて考えるべきもの、その指標を踏まえて本当に効果があったのかどうかということを考えなければいけないということは御指摘のとおりであります。

主なものにつきましては、実は今回概要版ということで指標の状況と主な県の動きみたいなものを説明させていただいたんですが、この次にあります施策の総合的展開の34施策ごとの取組について、若干今の概要版よりも詳しく、県がどういうことをやったかということが書いてございます。

ですので、そこを一定程度御覧いただくことと、あと、実は事業点検という制度が、この進捗管理とはまた別途、個別の県の施策については評価をしております。ですので、先ほどのインバウンド関係の観光振興等であれば、その事業点検シートのところでどの施策を幾らかけてやったのか、課題や今後の方向性はどうかということ、施策ごとには事業点検シートのほうで各部局でやっておりますので、そちらのほうで見ていく形になります。

(碓井委員)

というか、ここで評価しようとするのは、去年計画を立てて実行したわけですが、1年間。だから、どういう活動をしてその成果があったのか、具体的な内容で議論をしなければ、これからどの政策を取ったらいいかということが分からないと思うんですね。

例えば、女性の活躍やなんかも、いろいろ知事が音頭を取ってやられていると思いますが、ああいうものはどういう成果があったとか、これにどういうふうに関連しているとか、そういうふうにならないと、具体的な政策評価にならないのではないかと思います。

それを常にブラッシュアップしていく、要するにPDCAを回すというのが、この政策審議会の主たるフォローすべき内容だと思うんですが。これは私の意見です。

ですから、社会の成り行き、それから県の成り行きの中でこれを幾ら評価していても、基本的には去年どういうふうに計画を立てて、そして何をやって、その効果がどうだったかということをしつかりこの結果とともに議論をしないといけないと思うので、少なくとも具体的な内容の代表的に県が課題だと思っているものぐらいは、具体的な内容をこの後説明していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(中村会長)

その点に関しては、アクションプランというのがありましたよね。この「しあわせ信州創造プラン 3.0」を前に進めるためのアクションプランという考え方があったかと思うんですが。

(碓井委員)

アクションプランがあって、だからこの結果を見て県はこれからどういうふうにしようとしているのかということまでは説明してもらわないと、それに対していいのか悪いのかという議論をしなければいけないですから、結果はこうでしたと言われても、だからこれからまた何をやるのかということゼロベースで考えるという話になっていってしまうので、そうではない形で説明をしてもらいたいと思います。

(松本政策評価担当課長)

例えばどの事業とおっしゃっていただければ、今私どもの手元にある事業改善シートを基に、個別の細かい事業の御説明はできるかと思います。

(碓井委員)

だから、ここにある内容のどのシートというか、少なくともAは良かったわけですね。Dは駄目ですね。だからDは重点的にやる項目があるんだったら、それについては去年こういうことをやってきたけれども駄目だったと。だから具体的にこういう活動をしよう、今考えているということをお話してもらいたいのですが。

けれども、ここで結果としてまだ出ていないけれども、こういう活動をしてきて定性的には効果が出ているというのであればそれでもいいと思いますが。Dの項目は10項目ありましたね。

(中村会長)

Dが浮き彫りにされたというだけでも非常に意味があると私は思いますけれども、碓井委員の御発言は、恐らくAで安心していいのかという。

梅崎委員、お願いします。

(梅崎委員)

指名されたときに個別にお話しをしようと思っていたんですが、関連しますのでここで

発言させていただきます。

まず、この2ページの評価のAからDですが、Dが未達成という言葉自体が少し分かりにくくて、その前に前提として、いつも県の資料というのとはすごく作り込まれてよく検討されているということも踏まえた上でお話ししますが、この未達成がDというのは、私は数学的にはおかしいと思っています。Dはやはり基準値未満と、そのまま書かれたほうがよろしいのではないかと思います。80%なども、これらも未達成は未達成なので、D以外をことさらに達成と言わなくてもいいんじゃないかというのがまず一つです。

その上で、先ほど確井委員が言われたことの一つの具体例で、例えば4ページに、2024年2月に人口が200万人を下回りましたというような記述があります。例えば、全国的な少子高齢化というのはもう進んでいるわけですから、それに対して県の減少率がどうだったのか。その減少率が前年比に対して上向いたのか、下向いたのかというのが、たぶん先ほど確井委員が言われたことに少しつながるのではないかと思いますので、ここで発言させていただきました。

(中村会長)

根本的な話になりますが、A B C Dは、80%以上だったらBで、80%未満だったらCとなっているので、基準値を達成しているかないかというようなところではなくて、もうちょっと頑張ればいいという感じでA B C Dになっているというところですね。

(梅崎委員)

達成というのは、やはりそこに至ったということだと思うのですが、その定義は一旦置いておくにしても、やはり確井委員が言われたように、施策の効果というものが見えるような議論をするべきだというのは私も同意です。

(確井委員)

だから、このA B C Dというのが、定性的なものではなくて定量的にやってこうでしたというのは分かるので、県としてこれはこういう施策をやってきて良くなって、Dかもしれないけれどもこれを続けていけばいいけれども、こういうところは少し至らなかったということを、具体的な事例をもって説明してもらわないと、私たちはこの内容を見てどうかというと、またゼロベースで去年計画を立てたときのような議論をすることになってしまいます。

そうではない形にしていかないと、少なくともフィードバックがかかって次の年に何をやるかという形になっていかないのではないかと思いますので、そういうお話をさせていただいたんですが。

(中村会長)

ありがとうございます。おっしゃるとおりで、5か年計画で2023年が初年度というところで、今後進捗を見ていくわけですが、今、確井委員が言われたように、インプットでアウトプットというところの状況を見ながら、さらにどこを重点的にやればいいのかというところで、先ほど44指標あるけれども43しかない。ハイフンになっているのはZEHです

かね。2023 年度が調査開始だから評価できないという 7 ページのところ、そういうようなところがまさにそこかなと思っていますので、ただ、今回の 2023 年度初年度が、また来年もお集まりいただいて進捗評価をしていただくんですけれども、そのときに、確井委員が危惧されているのは、またこうなりましたという感じではなくて、何をインプットしてこうなったかということが分かるようにすべきだと。ごもっともな意見だと思いますけれども、県の担当者はいかがでしょうか。

(中村企画振興部長)

今のお話を聞きしていて、分かりにくいという意見はごもっともだと思いました。これは分かりにくくなっている原因としては、指標が定められているんですけれども、アウトプットと言いながらアウトカムというか、その結果世の中がどうなりましたということが示されていて、そこで評点をつけられているというのが非常に分かりにくいかと思いません。

例えば施策をやりましたと、何人の人にこういうことをしましたと、ここまではアウトプットですが、その結果人々がこういう行動をしました、世の中がこうなりましたというアウトカムがあって、そのアウトカムのところがここに並べられているんですけれども、それは県の直接のものからちょっと離れたところにあるものです。そこが分かりにくく見せてしまっているかと思ひまして、そこは評価手法などは考えていかないといけないのかなと。

まず、県としてどれぐらい頑張りましたと。直接どういうアクションをしましたというところがアウトプットとしてまず評価されるべきで、そこからさらにアウトプットがアウトカムにどう影響しましたかと、アウトプットの結果アウトカムが良くなりました、世の中が良くなりました、要するに長野が良くなりましたであればよいですし、そこに及ばない部分があるのであれば、それはその景気動向とか、世の中の動向かもしれませんし、そこは分析しないといけないと思います。

その相関性をはっきりと、もうこうですと言ってしまうのはなかなか難しいとは思いますが、その努力をしていく、その隙間を埋めていくというのを我々がしないといけないことなのかなと、委員の皆様の御意見を伺って思った次第です。

(松本政策評価担当課長)

今回 3.0 で対象にしている事業の範囲というのは非常に広いものがありまして、御指摘のとおり、例えば A のところは基本的に引き続きやっていけばいいのではないかという評価もできると思いますが、例えば D 評価であるものについては、委員御指摘のとおり、どういことをやって良かったのか、今一步だったのか。今後はどういう方向に進んでいきたいのか、特に D 評価のうち、いわゆる県民の皆様の御関心の高いことでもありますとか、県として力を入れていきたいことについては、少し深くといいますか、詳しく評価といいますか、それをやっていく方向を検討してまいりたいと思います。

(確井委員)

ちょっといいから、皆さんに意見を言っていた後でこれからどうするかというこ

とを。

(中村会長)

そうしましょう。一巡回りしましょう。でも非常に根本だと思っていたのは、プラン策定のときもそうだったんですが、その目標を達成しないでどういうアクションプランをつくるんだというところで、いろいろ議論をして、これとこれを重点的にやったらいいねというところだったと思うんですね。

今回初年度の評価ということで、次年度に向けてそれをどうするかというところを、今回の議論を踏まえて結構ですが、さらに重点的にどういうことをやったらいいというところまで議論ができるといいなと思っております。よろしくお願ひします。

それでは、順番にまず一言ずつ御発言をいただいた後に、また総合討論をしたいと思ひます。委員の名簿がございます。いつも五十音順で「あ」からですが、逆順で御発言を願ひえればと思ひしております。よろしくお願ひします。

花岡さん、お願ひします。

(花岡委員)

碓井委員のお話を聞いて、正直もっともだなというのと、それから評価に関して、例えばハード事業だと100億円の予算をつけて橋を直していきましょと、これは全部できましたと、Aですという話になってしまうとほかのものが分からなくなってしまうのではないかと。予算をつけたハード事業等に関しては、私は100億円で100億円の事業をやったらCではないかと、これをAにしてしまつと、ほかの事業の成果がよく分からなくなってしまうのではないかと思ひます。

評価しやすいものについては、むしろあまり評価は関係なくて、評価のしづらいものに関してしっかり評価していく、目標とやったことと、それがどうリンクしていて、そしてそれをどういうふうに評価していくかということで、評価の仕方も何%やったからどうこうというよりは、やったことに関してどういう成果があつて、それをどう評価するかという、A B C Dで評価をつけて仕事が終わつたということのほうが難しいというか、評価することの価値があまり見だせない、評価して次につながるための評価と考えていくと、外すべきものは外していったほうがいいのではないかと思ひます。議論すべきものがどれかということを経ることがあつてもいいかなと感じました。

(中村会長)

ありがとうございました。非常に建設的な意見です。抽出して評価すべきこと、次につなげるというところが、私も重要だなと思ひしております。

続きまして、野原委員、よろしくお願ひいたします。

(野原委員)

いろいろ御報告いただいてありがとうございました。いろいろ見させていただいた範囲で、計画段階でも申し上げたのですが、全部一律に並べてあるんですね、平面的に、総花的になっている。だから、何となくインパクトがないという印象があると思ひますが。

特に、中村部長が最初に言われた、県としてのこの計画の中で一番取り上げていかなければいけないのが人口減少の問題だと。それは今後そういうプロジェクトをつくって進めていくというようなお話があったので、やはり今一番長野県にとって大変なもの、これからしていかなければならないもの、少しとがったものに仕上げていかないといけないものというようなことで御説明いただいたほうが、総花的に全部言っていただいても、意見もなかなか突っ込んで絞り込めないで、こういう場では、ある程度絞り込んだ課題を出して御報告いただいて、それについて審議するというような形のほうが効率的かという感じを持っております。

そんなことで、一つ一つのことを申し上げても切りがありませんので、そういうような進め方を今後していただけるとありがたいかと、そういう感じを持っております。

(中村会長)

ありがとうございます。非常に建設的な御意見で、私も同感でございます。恐らくいろいろなところで、レバレッジといいますか、作用点があると思うんですね。例えば、先ほど言ったように大学が変われば社会が変わると、私は本当にそう思っています。そういうようなところで、何かこういう施策でどこを重点的にやればがらっとオセロのように変わるんだというようなところを見いだしていくところが、今後恐らくという、本当に同感です。ありがとうございます。

続きまして、根橋委員、よろしく申し上げます。

(根橋委員)

お疲れさまでございます。それぞれの委員からお話があったとおり、3.0の計画をつくる前段、そもそも2.0がどうだったのかという議論を行いました。県民の共感がなかなか得られなかった、そもそもこのプラン自体を知らないという総括がある中で、次の計画は、県民の共感を得るメッセージをどう発信していくか、共に解決に向けて行動できるものが鍵になるという視点で、この計画をつくり上げております。当然県の施策だけで全てが解決できるわけではありませんので、構成の団体や県民の皆さんが共に解決に向けた行動を呼びかける打ち出しをしたと思っています。

冒頭中村部長からお話があったように、いま少子化・人口減少対策戦略検討会議を通じて様々なところで対話を繰り返し議論が進められております。私どもも委員を送り出し議論に参加しておりますが、この戦略立案は創造プラン3.0が基底にあって、その上での人口減少対策戦略であるということがイメージできていないのではないのでしょうか。まったく違う戦略をつくり上げているという印象を受けています。そもそもこのプラン3.0も、少子化を見据えた八つのプロジェクトと、五つの柱で構成されています。ですので、少子化・人口減少対策戦略検討会議で議論が創造プラン3.0の達成に向けた戦略であるというイメージをどう打ち出すのか。議論に参加いただいた多くの皆さんの共感を得て、その皆さんも担い手となりどう取り組んでいくのか。そんな観点が必要であると思います。議論に参加いただいている皆さんも、そういったイメージにならず別々のものだと感じられている方は多いと思います。特にプラン3.0自体全く分からない、知らないという状況になっていると思いますので、これが基底にあってこの対策として少子化・人口減少対策戦略

をつくり出していくというような打ち出しが、必要だと考えています。

(中村会長)

根橋委員、非常に貴重な御意見ありがとうございます。そのとおりだと思っております。その辺の仕組みをつくるのがこの審議会の役目かと思っております。本当に大きなゴールというところを基に、県民の共感というのはまさにそうだと思っております。

続きまして、中條委員、よろしくお願いします。

(中條委員)

御苦労さまでございます。皆様がおっしゃられた上に発言させていただきたいと思えます。一応このしあわせ信州の5か年計画の評価ということで、県の立場としましては、あらゆるところから評価をするということは、私はそうだろうとは思いますが、直近にしなければいけない課題、そしてここで議論しなければならないのは、やはり一つ二つ、今やっておかなければというのはそこに絞ってというのは皆様がおっしゃられたとおりでございます。

また、部長がお話いただいたように、県民会議を今年度中に立ち上げるということでありまして、それが一番の課題ではあるかと思っておりますので、この後もう一回そのことについては発言をさせていただきたいと思えますけれども。

確井委員に関わる場所もあるかと思えますが、先ほど説明をいただきました6ページの4の⑤一般労働者の総労働時間ということについて進捗状況がこういう評価(D評価)になったという説明がなされたかなと思っております。このことをどのような形で評価されたのか、もしお分かりでしたら聞かせていただければ、私の次の議論に行くかと思えますが、よろしくお願いします。

(松本政策評価担当課長)

まず、今の働き方の部分については、今回御説明したのは総論のところでもシンプルな説明になってしまったのですが、お手元の資料の25ページの下段に総実労働時間の状況の取組の成果を記載させていただいているところです。

今回総実労働時間を少しずつ下げていこうという目標で動いていたんですが、増えてしまっている部分については、各企業さんのところでコロナ禍からの回復に伴って仕事は一定程度増える。ただ、すぐに採用等ができるわけではないところもありますので、その分労働者の方の労働時間を増やして対応したということがあるのではないかと分析はしております。

(中村会長)

取りあえずはよろしいでしょうか。また二巡目で御発言をいただければと思います。多面的な評価が非常に重要だけれども、そういう前提でございました。

続きまして、鈴木委員、よろしくお願いいたします。

(鈴木委員)

皆様、お疲れさまでございます。皆さんから出た意見と同じような意見ではございますけれども、やはり県として重点的に何を今行っていかなければいけないのかということ、そして今説明いただいたところでは、表面的なところは確かにそうなのかと思うんですけれども、ただ表面的であったとしても、Aだからいいというわけではない、Aでも県の施策としてやっていかなければいけない、もっともっと上を目指さなければいけないところもあると思うんです。

そう考えると、今県にとって一番これをポイントにやっていくということの一つ、二つ、三つというところで絞って言ったほうがいいのかと思いました。

やはり次につなげていくというところでは、全体的にというよりは、絞って県にとってどんなふうなお考えかが見えてこないのかなと思いました。具体的なところはまた後でお伝えいたしますが、やはり目標をどこに置いたほうがいいのかというところ、目標をどこに置いてその結果がどうで、ただその結果を通してまたどうしていったらいいかというところ、そのところの検証が、みんなが一目で分かるような資料があればいいのかなと思いました。以上です。

(中村会長)

ありがとうございます。私も同感です。Aだから良いというのではなくて、Aを維持するためにどうするかとか、さらにエビデンスベースという考え方でしょうけれども、基準値の再設定というところも含めて、そういう仕掛けも要るのではないかと考えていたところでした。

続きまして、近藤委員、よろしくお願いします。

(近藤委員)

おはようございます。評価に関しては、これまでいろいろ意見が出ていて基本的には私も賛成でございます。今回特に2ページの一番上にあるようにデータ、因果関係、成果と課題という形で評価を分かりやすくするという意図がはっきり出ていることは評価できると思います。

ただ、当たり前のことかもしれませんが、特に行政が行う仕事は数字になるものとならないものがある。あるいは数字になるけれどもそれには20年かかるものがある、そこをどう区別をした上で評価をするかということは考えなければいけない。それが企業と行政組織の違いだと思います。

企業は基本的には利益とか売上高によって業績を判断しますが、教育・文化などのように数字にはならない、なるとしても長期の時間がかかるものは、因果関係の確立が怪しくなってくる。それでもやらなければいけないのが行政であるということで、そういう点をしっかり踏まえて、つまり数値評価の有益性と限界、そこを常に意識していかないと、おぼろげ方向に行ってしまう。ある目の前の数字でいい結果になっても、それが別の分野でマイナスになっているかもしれない、中長期的にはマイナスかもしれない。そういったこともできるだけ分析していかないと、本当の評価にはならない。100%の評価はできないとしても、そこら辺の限界を踏まえた上で、因果関係の部分を扱わねばならない。そこを十分押さえつつ、先ほどあったインプットとアウトプットの関連をしっかりと押さえ、その

政策が良かったのか悪かったか、どう変えたら改善するかということ判断することは必要だと思います。それが中期的に与えるアウトカムや、さらに長期的インパクトの分析につながっていくこととなります。

それからある政策が他の項目にマイナスの影響を与えないかということも考えなければいけない。要するに、人間の行うことは複雑形ですから、総合的な評価はそう簡単には測れないということは大前提に置かねばならない。今の世の中は、数値主義、タイパ、コスパということに走り過ぎるきらいがあるので、短期的かつ表面的な分析にならぬよう十分にわきまえた上でこの評価を進めていただければと思います。

もう一つは、テーマから若干外れるかもしれませんが、教育の項目で、若者の学び、子どもの学びということを取っていますが、今授業のオンライン化がどんどん進んでいます。非常に便利であり、情報を効率的に拡散し、獲得するにはオンラインは非常に便利で有効で大いに活用すべきですが、同時に学ぶということは情報ではなく、自分で考えて人と対話することだということをお忘れではありません。最近言われ始めたようですが、大学で重要なのは、何を学ぶかではなく、誰と学ぶかであるということです。それが今のハーバード大等の基本的な理念になっているそうです。

カリキュラムは公表して、大事なことはいい仲間と議論を深める、対話することで自分の学びを深める。学びというのはそういう形で進めなければいけない。この学びはどこまでできたかはほとんど数字にならないわけです。20年後にその学生が素晴らしい人格者になればそれは明らかに成功ですが、それは測れないし、因果関係も確立できない。それでもその努力はもちろんしなければなりません。そういう意味で、冒頭に戻りますが、行政が行う仕事は企業と違って数字にならないものが多いし、だからこそ公共政策というものの存在価値があるのだらうと思います。

それから、この後時間がないかもしれないので一言申し上げますと、最近ある新聞の投書欄にZ世代の大学4年生の投書がありました。一言で申し上げますと、Z世代はリスクを徹底的に嫌うということです。リスクを回避する世代で、したがって、就職試験でも君は何をやりたいかと聞かないでくれ、君は何をやりたいか聞かないでくれという衝撃的な投書がありました。

私も大学の学生に聞いてみたら、そう思っている人が6割いるというようなことでした。なぜそうなってしまったのか、「近頃の若い者は・・・」と言って非難するだけではいけない、むしろそういう社会をつくってしまった我々が反省しなければいけないと思うのです。それはビジネスのやり方であり、社会のいろいろな規範、そういったものについても目を向けないと、明日を担う若者が社会を非常に窮屈なものと考え、消極的で小さいところに閉じこもってしまう、そういうことも大きな課題として、評価とはちょっと違うかもしれませんが、とらえていただきたい。そういう若者が社会の中核を担うと生産性も下がるし、学力も低下するわけですから、そういった点にもちょっと目を向けていくべきではないかと思います。以上です。

(中村会長)

ありがとうございました。後段では、若者の意識改革のことまで触れていただきまして、ありがとうございました。改めて1ページ、2ページのところは非常に重要だと眺めたと

ころでございます。基本目標も「確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る」と、非常に高邁な目標を掲げているというところも、本当に行動変容を含めた意識改革が重要だと思っています。観点の（１）のところに次年度以降の施策形成及び事業構築に反映させるということで、ここが本当に重要だと思って、今回の会議の価値を感じているところでございます。あわせて、近藤委員から御指摘がありましたように、２ページのところの学ぶ組織であるというところで、県の職員の意識改革、政策立案力の強化というところも非常に重く受け止めたところでございます。

それでは、オンラインで御参加の神戸委員、よろしく申し上げます。

（神戸委員）

よろしく申し上げます。評価の方法につきましては、皆様から御意見が出ているところで同感ですけれども、一定程度期間の中で達成する目標を設定しているような政策につきましては、一定程度進捗のパーセントでAからDという評価をするのも分かりやすいとか、やむを得ないところはあるのかなど。それは数値になっていることで分かりやすい部分があるかなと思いました。

ただ、皆さんがおっしゃるとおり、Aだったらそれでいいということではなく、引き続き取組を進めていくとかそういうことはあるかと思しますので、その部分も分かりやすくしていただくといいのかなというところです。

二巡目もあるというところですが、先ほどの個別の政策の柱について私の意見を述べてもよろしいでしょうか。今の評価とも関わるんですけれども、新時代創造プロジェクトの一つ目に出ている女性・若者から選ばれる県づくりプロジェクトの評価について、私の意見を述べさせていただきたいと思います。

９月３日の信毎に長野県の男女の賃金格差が全国でワースト３位だという記事が掲載されたと思います。やはりこういう記事を見ると、県はどのような施策をやっているんだろう、それは順調に進んでいるけれどもまだ途中なのか、まだ全然やっていないのかということが県民としては気になるころだと思います。

例えば、この新聞記事によって県内の企業ですとか、地域社会が、やっぱり地域格差があるんだな、そうしたらうちもこのままでもみんなと同じだというような認識になることも懸念されるころです。格差の要因として、女性の管理職の割合が低いことですか、勤続年数が短いことなどが挙げられていましたけれども、この点はまさに女性・若者から選ばれる県づくりプロジェクトにおいて取組を進めているところかと思えます。

順位に躍らされる必要はないと思いますし、公表データの評価が現状を正しく反映しているのかしっかり確認した上で、要因を再度しっかり分析して、これまでの取組の成果や課題と今後の取組方針について改めて検討をお願いしたいと思います。

女性の活躍支援は、人口減少・少子化対策につながる重要な施策だと考えています。県内でも若者にはワーク・ライフ・バランスを重視する考え方が徐々に浸透しているとは思いますが、まだ全体としては、家事や育児、介護を分担しないで、プライベートよりも仕事を優先するという働き方がよしとされるような雰囲気もあるように思います。長時間労働を改善して、育児休業も、介護休業も当然に取得できて、男性も女性もなく、若者も、誰もが働きやすい社会となるような意識改革というのが必要だと思っています。

この点について、長野県の取組として、女性から選ばれる長野県を目指すリーダーの会というのがこの報告書にも挙げられていました。トップの考え方次第という面が大きいと思いますので、企業や組織のトップが情報や課題を共有して意識を高めて、地域や業界団体、取引先などに情報発信をしていただけるようなこの取組は、ぜひ継続していただきたいと思います。

ただ、女性活躍の話をするときに、意識改革が必要でまだまだ時間がかかりますよねという反応をよく耳にします。実際地道で継続的な取組が必要なんだと思いますけれども、このリーダーの会では時間をかけていいという認識をなくしていただいて、喫緊の課題であるという意識を改めて発信していただきたいと思います。

このような取組があまり県民に知られていないと思いますので、会議で共有された内容をもっと積極的に長野県全体に広報してほしいと思っています。長くなりましてすみません、以上です。

(中村会長)

ありがとうございます。ぜひ県を中心に、その辺の広報活動は本当に重要だと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

何か御発言ありますか。よろしいですか。

(滝沢総合政策課長)

総合政策課長の滝沢でございます。先ほど根橋委員からも少子化の関係、また神戸委員からも女性・若者から選ばれる県づくりについて御意見を頂戴いたしました。お二人とも、おっしゃっていることはごもっともだと思ひまして拝聴させていただきました。

まず、根橋委員のお話のほうですけれども、まさに3.0自体は人口減少を正面から受け止めて、それを施策推進に生かしていこうということを共通視点に掲げさせていただいております。そういった意味で、やはりこの3.0の延長線上に今回我々がやっています県民会議、これから立ち上げようとしていますけれども、その活動があると思っております、この3.0で考えたことを、より深くさらに考えて実践していく、アクションしていくというようなものにしていきたいと思っておりますので、そのような覚悟でやっていきたいと思っております。

また、女性から選ばれる県づくりは、本当にこれは一丁目一番地でやっていかなければいけない政策と捉えているものでございます。そうした中で、ちょっと残念なことながら賃金格差がワースト3位という報道もなされましたけれども、こうした部分については、県だけではできないものになります。県として、こういったものに対して率先的に活動していく、行政が率先するというのもさることながら、やはり産業界の皆様方とタッグを組んでこういったことを変えていかなければいけないことがあると思っております。

そうした中では、非常に人口自体も減ってきていて、産業自体もたくさんの皆様方に参加していただかなければ成り立たないという時代になってきていると思っておりますので、そういった部分におきましても、協働してアクションを起こしていくのかなと思っておりますので、我々だけではなく、産業界の皆様を巻き込みながら、そうした動きが出てくるように取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

(中村会長)

滝沢課長、御発言ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。
続きまして、窪田委員、よろしくお願ひします。

(窪田委員)

AI シミュレーションが描いたシナリオ、2026年の分岐点1までのプラン、そして工程表、進捗度を全体をまとめたという中ではよくおまとめいただいたと思います。

その上で計画策定当初より、私のほうで申し上げてきた、それはより多くの県民、子どもたちや若者が参加し、自らの県、自らの生活、自らの未来を考える。だから、造語的なもの、あるいはカタカナ英語なり、認知度の低い言葉なり、あるいは人により意味や解釈の異なる、今言われるような「バズワード」というんでしょうか。そういうのはできるだけ避け、注釈や用語解釈は加える必要があると、こういうお話をしました。

それは、今回もお話がそれぞれの中で出ているように、まずこのアクションプラン、創造プラン自体に県民が興味を持って理解を示して共創する、この一番の大きな目的が共創であったので、そのためにはそういう分かりやすい表現をしていくことが一番大事であるというお話を当初からさせていただきました。

今後制度改革が進み、あるいは支援策が進み、そこでたぶんスタッフの方、トップの方もそうでしょうけれども、今足りないと思われるのは周知ではないでしょうか。PRされている、アピールされている、今後その方法と実行を含めた徹底というのが必要になってくるだろうと思います。

その中で、対象への広報ということで今後必要があるだろうと思ってお話をさせていただきました。もちろん今回のビジョンブック等々紙ベースも必要ですけども、やはりデジタルベースのもの、そしてマスコミやロコミ、受け手が動けるようなロコミだったり、プロジェクトの参加者やタウンミーティングや交流会を行った中での利用者も含めたそういう方からロコミが伝えられるような方法を取っていかないと、深化していかないだろうと思います。

いい例が結婚の支援のパスポート及び事業補助金について、また後段で出てくるのだと思いますけれども、その利用拡大のためにSNSを使って3か月広報したと。そういう中でかなりそれらの利用者も増えたということを考えると、今後はいろいろな中での評価も大事ですけども、周知をしていくということが大事だと思います。

そしてもう一点は、最大のミッションは何よりも少子化の流れを変える。このお話をさせていただきました。正直申し上げまして現下の情勢、今回の進捗状況やその他を見ると、殊そこに関しては地方創生の政策の中で、自治体の努力だけではやはりかなり難しいのではないかと、限界があるのではないかと考えています。国側が責任を持って東京の一極集中を是正する、その上で各自治体が不断の努力をする。現況では、たぶん毎年毎年この評価、進捗状況が出てくると思いますが、地方も東京も少子化が進むと思っています。

あと、お話ししたいことプロジェクト等もございますけれども、後段に回します。

(中村会長)

ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりだと思います。ここはかつ非常に重要だということでございます。真にインクルーシブな社会、これが豊かな社会だと私も同感でございます

続きまして、梅崎委員、よろしく申し上げます。

(梅崎委員)

先ほども申しましたけれども、ある現象や案件を評価するときに、そのものの数値はいつも取り上げられるんですが、そのもの全体をちゃんと評価するためには、その数値と変化量、変化率と言ってもいいんですが、それと私は特異点という言い方をしていますが、始点と終点、始点とはここでは基準点ですね。それとその先の予測を含めた終点、あともう一つ変化点で、どこで折れ曲がったかとかいうことです。絶対量と変化率と特異点というのを我々はグラフを評価するときに必ず見るわけです。

そうすると、少し絶対量に寄っているような評価になっていると思います。例えば、取られている年代が少ないのでなかなか典型的なグラフはないのですが、12 ページの 1-1 ③の湖沼における環境基準の達成率というのが、1年間でぐっと伸びているんですね。それで 73.3 という評価がついているんでしょうけれども、その前は、ほとんどこの目標値ぎりぎりのところにあるわけです。だから、A評価においてもこういうものが含まれています。

もう一つ挙げると、21 ページの 3-1③の地域活力の維持・発展のところの地域おこし協力隊の定着率というのが、前年度2年間は着実に伸びていたのが、この1年でぐっと下がっているということで、同じDでもこれは少し考えなくてはいけないということですね。ここにはグラフはありませんが、Dの中でもかなり伸びてきて目標値に近づいているというものもあるでしょうし、C・BだったのがDに落ちているものもあるかもしれません。

そういう変化率やその先の伸び方など、絶対量だけではなく、先ほど終点という言い方をしましたけれども、目標値等を見据えた評価をしていただくと、どこに重点を置くべきかということも分かってきます。そこにもう一つ、碓井委員が社会的要因という言い方をされましたけれども、我々は環境要因という言い方をしますが、それを除いて考えなくてはいけないというのが一般的な考え方だと思いますので、少し細かく見るような議論を、全体的にはできないかもしれませんが、ある程度の重点項目については記載していただければと思います。

(中村会長)

私もそれは御説明いただきたいなと思いますが、12 ページの湖沼の関係の達成率が 73.3%なのにAで、21 ページの地域おこし協力隊の定着率が 77.6%なのにDという、これはどういうふうに取り扱ったらいいでしょうか。

(松本政策評価担当課長)

D評価をつけているのは、いわゆる基準年よりも下がったものであればD評価ということになります。ですので、例えば先ほどの 21 ページのところでありまして、最初の年が 78.3%ございました。これを徐々に 85%に向けて伸ばしていこうと頑張っているわけで

すけれども、そのときに 78.3%よりも今回 77.6%ということで下がってしまっておりま
すのでD評価という形になっています。

(中村会長)

これはおかしいですね。何となく感覚的にこれでDでいいのか。

(梅崎委員)

結果論なんですね。そこに至った変化率などが入っていないので、先の予測もまたつか
ないですね。私は終点という言い方をしたんですが、ある施策にしてもこのまま下がって
いくんですか、それともこの効果が効いて少し上向くんですかということも踏まえて評価
すればこそ、効果的な施策になると思いますので、グラフをもう少し細かく見なくては
いけないと思いますし、ちょっと長くなりますけれども、このプラン 3.0 に対してはまだ経
過年数が少ないんですが、ある項目に対しては継続しているので、その前の期間から見て
みるというのも一つ重要な点かもしれません。

(松本政策評価担当課長)

分かりました。

(中村会長)

御検討いただければと思います。

続きまして、碓井委員、よろしくお願いします。

(碓井委員)

先ほどいろいろお話しして混乱させたかもしれません。基本的には、やはり皆さんがお
っしゃったように、これだけたくさんあるんですね、やっていることが。だから重点的に
議論すべき内容はしっかりみんなでフォーカスできるような形で進めていったらどうか
と思いますし、もう一点は、具体的に県がやった内容でどういう成果が出て、これから何を
やらなければいけないかということ議論するような形に、PDCAをうまく回してい
かないと、実効性のある結果を出すことができないので、そういうふうに努めたらどうか
と思います。

もう一点は、やはり私どもここのメンバーを見ると、それぞれの長野県の業界の団体の
リーダーの人が出ているわけです。この間の、例えば女性活躍だとか少子化というのは、
長野県だけではなくて日本含めて非常に大きな課題だと思うんですけれども、女性活躍
だけ取っても、県で音頭を取れば良くなるという代物ではないんですね。

要するに生産の現場、企業とか学校とか、そういうところがしっかり動かないといけ
ないし、地方でいえばより末端の生活まで関連するところは、市長さん、村長さんなん
です。この間の女性活躍の会議、知事が音頭を取ってくれましたが、正直あれは初めに
去年1回目をやったんですね。そのときにみんなで目標を立ててやりましょうと、やる
べきことは、女性はどのぐらいの就業率にしないといけないかということや何かは、
あそこのメンバーで立てたんです。

私も立てました。経営者協会の中でこれを徹底しようという形で活動し始めたんです。そうしたら、またこの間、昨年度とほとんど同じことをやるんですね。同じですよ、あれは、去年やったことと。ああいうことをやっていたのでは、県の中のそれぞれの組織を活性化させて、末端までその意識を到達させるということはできないと思います。やった感を出しているだけになってしまう、あれだと。そういうことをよく配慮しながら、全県的ないろいろな組織を巻き込む活動をしてもらいたい。

例えば、市で何かやらなければいけないことであれば、市長会の花岡さん含めいらっしゃるわけですから、ここを通して長野県の市の中のそれぞれの市長の中で一つの統一感を出した活動をしてもらう。労働関係であれば根橋さんがいるのだから、根橋さんのところにやってもらう。経営者協会であれば私もやりますし、あそこには例えば商工会議所であるとか、中小企業であるとか、一つの組織体になっているところがあります。そういうところの中で具体的な施策をうまく浸透させていくという活動をやろうとしているんだから、そういう活動をしっかりサポートすることをやってもらいたい。

それから、それぞれの企業の生産性を上げるのも同じだと思います。県の人たちがいろいろやっている右往左往するんだけど、実際に現場で活動する人たちは、県の人ではないんですね。もしそういうことができるのだったら、本当にそれぞれの職場に行っただけで活動できればいいかもしれないけれども、そうでないとすると、そういうことを組織化することを考えていかないと、具体的な実効性のあるものになっていかないので、ぜひそれを考えてもらいたい。

重点的にやるべきこと、具体的に県で何をやってどういう組織を動かしたのか。そして結果としてどうなったのかということのを体系的に整理して活動できるように、ぜひしていただきたいと思います。

私ども責任を持ってこれを立てたわけで、それぞれの組織が責任を持って実行するわけですから、そういうことを信頼してもらって、県でやるべきこと、それぞれの組織でやるべきこと、それを明確にして、ぜひこの計画が一步でも進むように、そういう形にしたいと思っています。そして、その活動のPDCAをきちんと回し、実効性の活動をし成果を出す。計画は成果を出すために作ったのですから。以上です。

(中村会長)

ありがとうございます。非常に建設的な御意見をありがとうございます。本当に実効性のあるアクションプランをいま一度検討しないといけないなと改めて思ったところがございます。

ただ一方で、組織でというのはなかなか難しく、積極的に進めなければいけないのは組織間での人事交流です。そういうような形でやるのも一つ全体的にそういう機運を盛り上げるきっかけになるのかなと思っています。

では、二巡目にしましょうか。それとも自由な発言で限られた時間を、簡単に回ってお話いただくのがやりやすければ、花岡委員からまた言っていただくか、いろいろな観点からお話いただければと思います。

(碓井委員)

いいですか。中村さん、組織間と言うんだけど、やはり県でもっと、例えば市のほうにたくさん人を出すとか、例えば経営者協会のいろいろなところから人が出てくるとか、こういうことをやったほうがいいんじゃないかと思います。現場に近いところにどんどん県の人たちが出て行って、実効性のある活動ができるように、現場でやはり活動するということをぜひやったほうが良いと思うんですが。現場がどうなって、それぞれのところがどうなっているかということをしっかり確認してサポートすることを、ぜひ計画の中に入れてやってもらったらどうかと思います。

(中村会長)

企画振興部長、まさにそういうことができる部署だと思いますが、中村部長、御発言いただけますか。

(中村企画振興部長)

現場に近いところで判断しないといけない、まず感覚を身につけなければいけないというのは私自身も常々申し上げていることで、私も大事にしていることです。そのうちの市町村の話でございますが、今、人口減少対策戦略を話し合う中でも、実際全国に比べると長野県の市町村はかなり小規模な市町村が多いと、ただ国というのは平成の大合併で合併された後の市町村を思い浮かべて市町村にどんどん仕事を振ってきていると。その中で長野県の市町村が仕事をしていく中には、やはりもう単独で当たるのではなくて、水平連携を強めた上で、県ももっと前のめりに広域連合の中に入っていくぐらいの気概を持って垂直連携を深めていかなければいけない。また人も送り出して行かないといけないという話をまさにしております、そこは確井委員のおっしゃった現場に近いところに県も人をどんどん送り込んでいくということに、私も少し勇気づけられた思いであります。おっしゃるとおりだと思っております。

(中村会長)

ありがとうございます。
市の代表の花岡さん。

(花岡委員)

いずれにしても、市町村と県の職員の交流人事というのが、過去のほうが活発だったという感じがしています。市になったということもあって、一方通行で県のほうに出向することはあるんですけども、町時代は相互に交流事業をやっている、それが人材として県と自治体のクッション役をしていただけているということで、将来にわたってそれが人材になっていくだろうという意味では、職員数を減らしたというお互いの関係がある中で、将来の関係が希薄になってくのではないかと心配しています。

あと、地域おこし協力隊というのは、県には来ているんですか。市町村以外にも。

(中村企画振興部長)

はい。

(花岡委員)

基本的には各市町村に来られているという感覚が強くて、結局これを県の事業として人数を評価するということが自身、県はこういうことをやって確保したということで、総体としては各自治体に来ている地域おこし協力隊の人数の総和ということだと思うので、県として地域おこし協力隊を利用するためにこういう宣伝をしているいろいろな広域行政なりに呼びかけて行って、結果としてそれがどのぐらいの獲得につながっているとか、もしくは都内での地域おこし協力隊の仕事に関する説明会を開きましたと、その結果何人が来てどういう形で採用になってやっていただいているとか、地域おこし協力隊が活躍してこういう事業が実際には実現できていますみたいなことのほうが、単なる人数だけよりも重要なのではないかと思います。

(中村会長)

ありがとうございました。先ほどの一巡目で、二巡目で御発言があると言われていた中條委員と鈴木委員、何か御発言があれば。

(中條委員)

よろしいでしょうか。今皆さんが言われたことと同じになってしまうと思いますが、やはり一番ここで目指す姿ということが、少子化・人口減少が一番の問題になってくるかと思えますし、そして今すぐ結果が出るものではありませんけれども、将来の人材を育てるということでは、今一番力を入れてもいい政策ではないかということで、部長が言われましたように、今年度のうちに県民会議を立ち上げる準備を進めているということに関連いたしまして、今までの中で何で少子化というか、子どもを育てるのが難しいかという中に、今までは一つの例として、男性の育児休暇を取っている人ほど2人、3人と子どもの数が多いですよと棒グラフを出していただいて、私はいつもそこで発言させていただいているんですけども、それも含めまして、やはり皆さんの今までの発言の中で、子どもを育てるには経済的な問題があるよねと。それと教育にお金がかかるよねというのは、前の皆さんたちから問題は指摘されてきているんですね。

それを横断的に何が問題でどこを変えていけばいいかなという形に県民会議でも持っていただければいいかなと思えますし、神戸委員もおっしゃいましたけれども、意識の改革が必要になってくるのではないかという一文で、女性の管理職がなかなか不足している、それから審議会の委員は減っているというデータがありました。やはりこれも、私は長く参加させていただいているんですが、女性自身に今のままでいいよという、私たちは管理職よりは今のままでいいよという考え方の女性もいます。

ですけれど、もう子育ても終わったので私たちも一生懸命管理職になるために頑張りたいのよと言う女性もいるんです。そのネックになっているのではないかなと、私が勝手に考えているんですけども、やはり育児休暇を取ったということがネックになっているみたいです。何年育児休暇を取ったということで、社会的な評価がまず下がるといえるか、普通に子育てもお仕事も両立したよりは1段階下がるみたいな感じで、私の勝手な考え方もかもしれませんけれども、育児休暇を取ったということに関して、評価がイマイチ私たちの

中にできていないかなと思います。

スウェーデンなどでは、育児休暇を取ったこともお仕事をしたことに数えて、それで意欲のある女性たちは幾らでも頑張っていかれるので、意識の改革、神戸委員とは違うかもしれないかもしれませんが、男性も女性も、育児休暇、介護休暇を取ったということをプラスに、次の世代を育てる、それから介護は今まで頑張ってきてくださった皆様への感謝という意味で、そういう休暇を取った人をプラスに考えて、それにポイントをつける。やり過ぎかもしれないかもしれませんが、昇給するとかそういうふうなプラスの意識改革をしていただいて、県からいろいろなところにも、産業界にも発信していくという形にさせていただきたい。

今までの休暇を取ったのだから男性も女性もそれはマイナスみたいな考えではなくて、それをプラスと考えると、人を育てる、人間を育てるという一つの大切なお仕事をしたというふうに考えていただいて、それをプラスにさせていただいて、やる気のある方はどうぞ皆さんこの研修を受けてくださいよと、また参加できるような研修もその間にしておきますよという形で、休暇を取ったことをプラスに考える意識改革を、ちょっと保守的な長野県が新しく意識の改革ができてこうなりましたよというのを見せていただければ、私たち子育てをしてきた女性にとっては大変ありがたいなと思っております。ちょっと画期的なことを申しました。

(中村会長)

そのとおりだと思います。意識改革は重要だと思います。

鈴木委員、何か御発言がありますか。

(鈴木委員)

少子高齢化ということでそれも今問題になっておりますし、子どもの数も本当に減ってきている、その反面高齢化もありつつ高齢者が増えてきているということで、2025年問題ということで、もう来年になるんですけれども、それ以上に2040年問題ということで、やはり介護の世界、高齢化というところで問題になってきています。

それを支えるという意味では、介護職が今人手が不足になっているというのは御存じのとおりだと思いますけれども、今、県知事が、介護は資格がなくてもできるよ、入ってから資格を取ってやろうよというコマーシャルを打ってくれています。あれはすごくいいことだと思うんです。

これは現場にとってはとてもいいことで、やはり資格のある人だけではなくて、資格のない人もそこから資格を取っていただいて介護の世界に入って高齢者を支えるというところではとてもいいことだと思います。

その反面、やはりその裏があって、あれをやることで養成校、専門学校の入学生が減っているという現状があります。今年度も各学校13人とか15人とか、介護福祉学科は本当に減っている状況でありますし、また、学校のほうも閉鎖しているという実態があります。これでいいのかということです。高齢化に向かっていくのにこの状況でいいのかということころは本当に考え深いものがある、それに関しての施策ということで、介護福祉会も介護福祉士になった人だけではなくて、これから介護に興味を持っていただける方ということで団体では動いていますし、県社協のほうでも動いてはいるのですが、それだけではな

くて、市町村であったりそういうところにもっと危機感というものを伝えてほしいですし、私たちがそこで話をしても、「ああ、そうなのか」と横に流されてしまうような向きがあります。

そうではなくて、今皆さんのほうからも出ていますが、いろいろな団体があるのだから、その団体を中心に、または県・市町村が一緒になってその問題に取り組んでいくというような一貫性みたいなものがもうちょっと出てきてもいいのかなと思います。

変な話、私たちが底辺で一生懸命動いていても、それが実にならない。それをもう一歩後押しをしていただけたら、これからの高齢化社会に介護人材を増やしていくというようなどころにも手が届いていくのではないかと思います。

これは介護福祉士だけではなくて、福祉業界全体の問題です。地域包括的ケアというところで連携を組んでやっている中でも、どの職種もやはり減ってきているというところで、本当に苦勞している現状があります。

それと、今ここで言っても致し方ないのですが、介護業界に関しては、訪問介護の介護報酬も下げられて、本当にモチベーションが低くなっていて、そこに関してこれからいろいろ県のほうにも意見書等を出していこうと思っているところではありますが、そんなところで、本当に福祉業界の現場が困っていて、どんな手を差し伸べてほしいのかをもうちょっと情報を取っていただいて、私たちも言えればいいんですが、それでやはり後押しをしてほしいのかなと。いろいろなところで、これは市町村だけではなくて、いろいろな事業所でもそうです。介護の事業所、施設だけではなくて、普通の企業にも、やはり意識を持っていただくのも必要だと思います。

なので、県民全体にというのであれば、そんなような施策とかそういうものをもっと打ち出していてもいいのかなと思っておりますので、ここに、介護提供体制の構築の重要経費のところに、介護士確保についてということで103人の直接雇用につながったとあるんですが、103人ではとてもとても少ないです、足りないです。これだけでは中信の施設の半分ぐらいが満たされるぐらいで、本当に足りないです。もっともっと人数がいなければというところもありますので、これで満足するとかそういうことではなくて、この活動は活動でとてもありがたくていい活動ですが、もっと何かやる手だてはないのかなとか、そんなふうに福祉の関係では思っているところです。

なので、やはり連携とか意識を改革していくとか、みんながそういうことを知っているとか、そういうことはとても大事だと思います。以上です。

(中村会長)

鈴木委員、御発言ありがとうございます。長野県は健康長寿県というところでおっしゃっているように、安心して老いることができる、それが「しあわせ信州創造プラン」のキャッチコピーの「信州からゆたかな社会を創る」というロールモデルになるかと思った次第でございます。

いかがでございましょうか。

(花岡委員)

少しいいですか。今の訪問介護の報酬の話のつけ足しですが、都会の団地だとかマンシ

ョンなどを担当している訪問介護の団体では、非常に利益が蓄積されているということで訪問介護の1件の当たりの報酬が下げられたと。そのことによって、信州みたいに中山間地で活動している、次から次に移動するのに時間がかかったり、非常に効率の悪いところでも同じに下げられているということに関して、市長会として、ぜひこれを現状に合わせて判断してもらえるように要望を上げていますので、団体としても一緒に活動していただきたいと思ひますし、信州の訪問介護にとっては非常に危機的な状態だということにつけ加えさせていただきます。

(中村会長)

ありがとうございます。恐らく個別具体的話になりますと、広がり過ぎてまとめはできないなと思っております。阿部知事がこのプラン3.0のときにここに来て発言されたのは、信州は二つ特長があつて、ものづくりと健康長寿だと言われていたので、そういうところは大切にするというような、冒頭に確井さんが言われたような重点的なアクションプランというところの中に、やはりきちんともう一度意識し直す必要があるのではないかとと思ひます。

簡単にもうまとめさせていただいて、私の意見というより、皆さん方からお伺ひした意見を踏まえてですが、聞いておひまして、三つが今回の評価においてあるのかなど。アクションプランというのをもう一度考えて、何をやったからこうなるといふところを次につなげたらなど。その中に盛り込まなければいけないのは人口減少ですね。少子化だけでなく、外国人で先ほど移民社会の、冒頭に御挨拶しましたけれども、そういうところも含めて、人口減少にどうするかといふところ。それは恐らく新産業創出にもものづくり、新産業創出につながるなと思ひました。

2点目が、梅崎委員から御発言がありましたように、A B C Dという画一的な評価ではなくて、変化量、変化率でといふような仕組みも含めて、対外的にDとか、Aとか出てきますと誤解されては困りますので、そのあたりをもう一度きちんと見直す必要があるのかなど。

3番目がやはり広報で、「しあわせ信州創造」は非常に高邁な理想を掲げておひます。トップセールスで阿部知事が非常に頑張っておられますけれども、非常に地に足がついた地道な活動が必要ではないかと思つた次第です。それが根橋委員がおっしゃっていた共感といふところにつながるのかと思つたところでございます。

全体として、これは発言したいといふことがあれば承りたいと思ひます。

梅崎さん、お願ひします。

(梅崎委員)

計画をつくるときには、やはり理想を掲げながらつくっていくんですが、やはり現実を踏まえて実行可能性といふのも考えなければいけないので、中間報告の目的の一つには、その2年間これまでの中間報告の結果を踏まえて、極端な見方をすると、どこに選択と集中を与えるかといふことだと思ひます。

やはりすごく広範囲に及ぶので、全てに対してこの指標をV字回復させましようといふことは非現実的なので、皆さんが言われているように、少し分野ごとや、今の少子高齢化

とか、そういうことに焦点を絞って、今回の会議があったので次回の会議のときは少し右肩上がりに回復しましたよというのが会議の成功だと思うんですね。

ですから、その辺を、皆さんの御意見とか県としての重点項目を絞っていただいて、グラフがV字回復するというのが幾つかある、そのためには少し予算の集中と選択をやって、ここは仕方なくこうしましたということでもある程度いいと思うんですね、その時々によっては、そういうことをしっかりやられたらいいのではないかということです。

もう一つ、長野県は教育県と言われて、私は長野県出身ではないのですが、長寿命県で、健康県ですが、やはり「子育て」がそういう全てに関わると思います。もう一つ以前の審議会で計画をつくる時に知事は、「遊び」ということを言われたんですね。私はそれに関連して芸術・文化・スポーツに身近に触れられるということが生活の潤いや教育や子育てということで、ぜひ項目を入れてくださいという意見を出しましたが、8ページを見るとD評価です。これには私としては少しがっかりしたところです。

それと、先ほど中條委員などが言われた、県がすぐにはできることでもある、女性委員が減っていますということや、少子高齢化みたいに今やらないと下がっていくし、やってもすぐには効果がでにくいことをなども踏まえながら、やはり選択と集中をするべきだと思います。

(中村会長)

ありがとうございました。承りました。これは平場で議論はできませんので、引き取らせていただいて検討させていただければと思います。

根橋さん。

(根橋委員)

いろいろあるんですが、やはりこれからは、先ほど言われた共感につなげるためにも、役割意識の明確化、確井会長が先ほど申しましたが、それぞれの団体でこれに共通すべき取組をいろいろやっています。その辺をしっかり意識してこれからもやるということと、これに結びつくというつながりを今後どう持っていくかということが必要だと思っています。

神戸委員が言われた男女賃金の格差の部分は、今経営者協会の皆さんと我々と、各現場で賃金に見える化をして具体的な取組を進めていますし、そういった役割意識をどう持っていくかということ、我々も含めてどうつなげていくかということがポイントなのと、あと近藤委員が言われた価値観の変化ということはしっかり見据えていかなければいけないと思っています。

我々の世代がよかれと思ってやっていることが、若い皆さんに全く重要視されていないという事象は、私も学生との対話で直面しています。

そういった意味でも、人口減少で対話を各地で各層でやられていますが、ああいった上がってきた声を、ぜひとも生かしていかないといけないと思います。そういった声をテーブルの上に出していただいて、このプラン、また我々がやっていることにどう落とし込んでいくかという生かし方をぜひともお願いしたいと思います。

あと1点、負の影響というお言葉が近藤委員からありました。やはりこれを推進するに

当たって、これまで長い間進めてきたことの負の影響が逆にどんどん出てくることも懸念されます。

例えば、兼業・副業の推進ということもありましたが、中條委員からあったように、これが長時間労働につながっている実態も出ていましょうし、副業では、生計のためにやっている副業とやりがいのためにやっている副業と、そういったこともしっかり見据えていかないと、逆の方向が出る可能性もあります。そういったこともしっかり意識した取組が今後求められるのではないかとということで、発言させていただきました。以上です。

(中村会長)

ありがとうございました。しっかり受け止めさせていただきました。

確井委員、簡単をお願いします。

(確井委員)

本当に簡単に。やはり今、長野県は非常にチャンスだと思うんですけども、環境の問題や中国との関係でものづくりがまた日本に戻ってくるとか、でも、少子高齢化が決定的なネックになっています。だからそれを何とかしなければいけない。そのためにも優秀な女性にはどんどん働いてもらわなければいけないし、みんなで手分けしてやらなければいけない。これは労働界もそうだし、企業ももっと稼げる状態をつくり出して給料を上げないと、とても子どもを産める状況にはなりません。全ての政策がリンクしているので、具体的に県でやるべきことと、それぞれのところでやるべきことを明確にして、県全体がうまく動けるように、ぜひしていってほしいと思います。

(中村会長)

ありがとうございました。

野原委員。簡単に。

(野原委員)

提案ですが、こういう会議は2時間ですね。それでもみんなが話さなければならないということで、やはり消化不良になります。消化不良になったまま、また元に戻って、今度は皆さん方が皆さんの机の上でやると。全然もまれていけないので、もしできれば時間をつくっていただいても、各委員のところに出向いて本心をよく確認して、そしてそれをまたまとめていただいて運営に生かしていただくというようなことで、この審議会だけでは十分でない気がいたしますので、そういうような機会をつくっていただけたらいいかなと思います。

(中村会長)

非常に建設的な御発言ありがとうございます。事前にメモや骨子を書いていただくとかいうようなやり方もあるかなと思っておりますし、ぜひ県の方は委員のところを回っていただいて、そういうような機会も設けていただければと思っております。

先ほど確井委員が言われた、まさに人口減少対策は一丁目一番地です。これを変えれば

全てが変わるというところは異存はないと思いますので、どうぞ引き続きよろしくお願ひ
します。

すみません、私の議長の進行の不便でぎりぎりになってしまつて、恐らく消化不良と
いう方もたくさんいらっしゃると思いますが、御容赦いただければと思います。

それでは事務局にお返ししたいと思います。

4 閉 会

(齋藤総合調整幹)

本日はお忙しい中、御出席いただき、熱心に御議論いただいて本当にありがとうございました。

以上で、「長野県総合計画審議会」を終了いたします。ありがとうございました。